たたえる
周年・文化の日記念式典

11月3日、「市制施行60周年・文化の日記念式典」が「みらい」文化ホールで開催されました。

市制施行60周年を記念し、上田清司埼玉県知事をはじめとする多くの来賓を迎えて行われた今年の式典では、各分野で活躍し永年市政に貢献された市民功労の3人・1団体を含め、80人、19団体が表彰され、工藤市長から表彰状と記念品が手渡されました。

ここでは、表彰を受けられた皆さんをご紹介します。

表彰状贈呈
（順不同、敬称略）

○市制施行60周年記念特別表彰

行田地区更正保護女性会会長　山本　良子

行田市保健協力会会長　野本　祐子

市民体育祭連続優勝　荒木地区体育協会

○行政委員会委員として永年勤続された方

元選挙管理委員会委員長　遠藤　清

市民功労

福祉功労表彰　後藤　昭三 氏

功労の事績

氏は、平成２年から約17年間の永きにわたり民生委員・児童委員として、高い識見と社会奉仕の精神をもって、地域における社会的弱者への支援活動を行い、地域住民の福祉増進に多大な貢献をされました。この間、氏は、平成10年12月から行田市西部地区民生委員・児童委員協議会副会長として、さらに平成13年12月からは、行田市民生委員・児童委員連合会会長として、その指導力を発揮し、組織の充実・発展はもとより、誰もが安全で安心して暮らせる環境を作り、市民と行政のパイプ役としても尽力されました。

また、従来から懸案とされていた災害時の要支援者に対する取り組みとして、活動手順を示した災害緊急マニュアルを作成するなど、地域防災の推進にも力を注ぎました。さらに、いち早く児童虐待防止のためのネットワーク作りを唱え、その整備に関わるなど、虐待の予防・防止に大きく寄与されました。

退任後は、厚生労働省所管の財団法人厚生労働問題研究会の「孤独死防止の手引」および「高齢者虐待防止の手引」の製作委員会委員として、その作成や発行に関わるなど、精力的な活躍を続けています。

氏の活動は、地域の保健医療の向上、社会教育の充実、人権教育の推進をはじめ、各種行政施策の総合的な推進に大きな役割を果たしており、その功績は誠に多大なものがあります。

市民功労

文化功労表彰　大川　守夫 氏

功労の事績

氏は、県立進修館高等学校の前身である行田高等学校ならびに羽生実業高等学校で教べんをとりながら陸上競技部監督を務め、多くの部員を指導し優秀な投てき選手を育成して来られました。特に、行田高等学校監督時代には全国高校総体で杉田和巳選手の投てき種目３冠制覇を実現させるとともに同校を県勢初の陸上競技総合優勝へと導いたほか、全国高校総体史上初となるハンマー投げ１位、２位、３位独占を成し遂げた選手たちを育てるなど、「投てき王国行田高」の名を全国に轟かせました。教員（監督）時代の36年間での全国高校総体と国民体育大会における教え子の通算優勝回数は、17回にも及ぶ戦績を誇っています。

また、氏がハンマー投げで後にアジアの鉄人と称される室伏重信氏を指導した縁で、アテネ五輪ハンマー投げ金メダリスト室伏広治選手が高校生時代には、親子で行田高校陸上競技部の合宿に参加するなど、氏と室伏親子とは、ハンマー投げによる深いきずなで結ばれています。

教職を離れてからも陸上競技への情熱を燃やす氏の功績を称え、埼玉陸上競技会は次代のオリンピック選手候補の育成を目的に「大川杯ハンマー投大会」を開催しています。この大会においても、氏は全国から集う選手たちの才能を伸ばそうと精力的に行動しています。

氏は、豊富な識見と卓越した指導力をもって、スポーツ普及発展のため、地域を越えた幅広い活動を続け、社会体育の振興に多大な貢献をされています。